

科目名		建築構造演習			
担当教員	目黒 敬也	実務授業の有無	○		
対象学科	建築士学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>1年次から学んだ一般構造Ⅰ、一般構造Ⅱの総復習をする。 建築施工管理試験対策として小テスト等で確認しながら進める。 1. 鉄筋建造物の構造、工法の種類と地盤、基礎の重要性を身につける 2. 建築設計と関係が深いことを認識し、環境に適した各工法の基本をしっかりと身につける。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで合格基準に到達させる。</p>				
学習目標 (到達目標)	1年次から学んだ一般構造Ⅰ、一般構造Ⅱの総復習をする。 理解度については小テスト等で確認しながら進める2級建築施工管理試験の、合格基準点に達している。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①やさしい一般構造、 ②やさしい建築施工、 ③要点テキスト、 ④配布プリント等				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	2級建築施工管理試験対策－1 ①2級建築施工管理試験の躯体・仕上げ分野の過去問題	方法：過去問題を繰り返し行い、問題の出題傾向と内容を説明し、解答、解説。理解度を確認 目標到達：問題を理解し合格基準に達している 学習準備：教科書、プリント、過去問題の予習			
2	2級建築士 学科試験対策 二級建築士学科試験の構造分野の過去問題	方法：過去問題を繰り返し行い、問題の出題傾向と内容を説明し、解答、解説。理解度を確認 目標到達：問題を理解し合格基準に達している 学習準備：教科書、プリント、過去問題の予習			
3	小テスト	過去問題から出題し、自分が問題を理解しているか確認する。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
期末試験・小テスト・出席状況・授業態度を総合的に評価する。期末試験70%、小テスト20%、出席状況・授業態度10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		1年次の基礎をしっかりと復習することで習熟度を上げる。また小テストや過去問題のの対策テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う			
実務経験教員の経歴	建築大工として約5年実務に携わる				